

平成29年度学校自己評価システムシート (県立豊岡高等学校)

目指す学校像	地域に根ざし、豊かな人間性を培う進学校
--------	---------------------

重点目標	1 学力向上に向け、授業改善に取り組む 2 個々の生徒の進路希望に応じた指導を充実させる 3 基本的な生活習慣の改善を図るとともに生徒の自律性を養う 4 生徒会行事・部活動を充実させ、主体的な学校生活に取り組みさせる 5 開かれた学校づくりに取り組む
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	6名
	事務局(教職員)	14名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	生徒が授業に臨む姿勢は、概ね良好である。さらなる学力の向上に向けて、授業、豊高ゼミ、進学講習、家庭学習などにおいて、積極的な学びの定着と、自学自習の確立が課題である。	授業の予習復習を含めた家庭学習の定着や、休み時間の有効活用を促す。	①生徒の積極的な取り組みの機会を増やすための研修等を行い、学習活動を工夫する。 ②今未来手帳の積極的な活用を通して、家庭学習の時間の確保と定着を図る。 ③授業3ヶ条が授業(生活)に定着するよう、機会をとらえて生徒に呼びかける。	①生徒の積極的な取り組みを育成する授業改善ができたか。 ②今未来手帳を活用し、自己管理ができたか。 ③授業3ヶ条の励行を生徒に呼びかけたか。	目標がほぼ達成できた。 ①授業公開や研究授業を行うと共に、ITを活用する授業実践を進め授業改善に努めた。 ②生徒全員に手帳を持たせ学習時間の記録や学習状況の把握をさせた。 ③集会など機会を捉えて授業3ヶ条の励行を呼びかけた。	A 手帳を活用して自己管理を徹底させると共に、積極的な自学自習や家庭学習の時間を増やす工夫が必要である。
2	生徒の進路希望は実に多種多様である。さらに、大学のグローバル化や入試改革が進行する中で、生徒の進路実現に向けた進路指導を行うためには、的確な進路情報の収集と集約・共有が必要である。様々な生徒の進路希望に対応したきめ細やかな進路指導の充実が課題である。	生徒の進路実現に向け、継続的な指導を行うとともに、指導力の向上を図る。	①具体的な進路イメージが持てる効果的なガイダンスを生徒に行うとともに、保護者に対しても説明会を行う。さらに職員向けの研修会も実施し、情報を共有する。 ②豊高ゼミやその他の進学講習など計画的に実施する。 ③研修会への参加や先進校視察等を通して、進路情報等を収集・整理し、進路指導に生かす。	①効果的なガイダンス・保護者説明会・職員研修が実施できたか。 ②進学講習等が計画的に実施できたか。 ③各種研修会や先進校視察により進路情報を収集し、指導に生かすことができたか。	目標がほぼ達成できた。 ①科目選択と連動したガイダンス・保護者説明会を実施することができた。 ②計画的な進路補習が実施できた。外部講師の招聘を含め、計画的な小論文指導も実施できた。 ③高大接続研修会の実施や先進校視察と報告会を実施し学校全体で進路情報を共有し、保護者会等で進路情報を提供することができた。	A 入試改革が進行する中で、的確な進路情報の収集と集約・共有、ならびに整理された情報の発信に向けた継続的な取組が必要である。
3	各年次ともに落ち着いた学校生活を送っており、整容の乱れもほとんど見られないが、下校時などで不十分な点が散見される。生徒指導部や学級担任を始め学校全体で生徒の規範意識を高めていくことが課題である。	規範意識を高められる指導を徹底する。	①全体基準に基づいた指導を行う。 ②各種検査や点検における事前・事後指導の充実を図る。	①登校時や授業時などで全体基準に基づいた指導が行われていたか。 ②各種検査・点検における違反者が減少したか。	目標がほぼ達成できた。 ①積極的な情報交換により情報の共有化を図ることができ、統一基準に基づいた指導を行うことができた。 ②服装などの違反者については、各年次とも確実にその数を減らしている。	A 全体的に良い方向に向かっているのは確かではあるが、一部遅刻を繰り返す(指導の効果が見られない)生徒がいることや、登下校時の制服の着こなしについては、まだまだ改善の余地がある。今後、保護者との連携をさらに深めることや指導内容の検討などとしていく必要がある。
4	新たな実行委員会組織による文化祭や球技大会がスタートした。文化祭や球技大会を新たな実行委員会組織により、定着・発展させ、生徒会本部もその組織の改善が課題である。	各種実行委員会や生徒会本部が機能し、行事等を成功させる。	①LHR や委員会での指導を通じて、新たな組織での運営を定着させる。 ②生徒会本部や実行委員会の組織を見直し、改善を図る。	①新たな実行委員会組織が定着したか。 ②生徒会本部や実行委員会の組織を見直し、改善が図れたか。	目標がほぼ達成できた。 ①実行委員会が定着して、行事を円滑に運営することができた。 ②生徒会本部の組織見直しへの意識が高まり、改善へのスタートがきれた。	A 新たな実行委員会立ち上げから2年目と言うこともあり、具体的な解決すべき課題が見えてきた。次年度は本年度の組織や指導体制をさらに充実させる必要がある。
5	中学校訪問などの地道な広報活動により、志願倍率も上昇し、豊岡高校に対する中学生や地域社会からの評価も高まった。安定した生徒募集に向け、全職員による広報活動体制の維持が課題である。	十分な情報発信を行うために、全職員による広報活動体制を維持する。	①全教職員の協力により、学校説明会等を開催する。 ②情報発信の量と質を高める。 ③多角的な手段により本校をPRする。	①全教職員が広報活動に参加できたか。 ②発信した情報の量と内容は適切であったか。 ③多角的な手段により広報活動が展開できたか。	目標がほぼ達成できた。 ①オープンキャンパスや学校説明会を全職員で分担し協力して行った。 ②WEBや横断幕を利用して情報提供を行った。 ③中学校や塾に広報活動を行った。	A オープンキャンパスを学校全体で取り組み始めて2年目になり、校内の協体制も整った。近隣の中学校や地域にも好印象をもたれるようになった。今後は学習・特別活動ともリーダーになれる生徒が入学してくるようにはたらきかける必要がある。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成30年2月13日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>自学自習や家庭学習を意欲的にさせる指導をいかに進めていくのか検討してもらいたい。</p> <p>新校になり、1サイクル終わり、進路実績に中学校は関心を寄せている。これまでの取組の成果を検証してもらいたい。</p> <p>生徒は礼儀正しく、落ち着いた学校生活を送っている。</p> <p>ボランティアとして地域行事の運営に協力してもらい、感謝している。今後も地域との連携に積極的に取り組んでもらいたい。</p> <p>生徒や保護者にアンケートを実施し、結果を校内でしっかり分析しているのは素晴らしい。学校を理解してもらうために、このような情報を保護者にも発信してもらいたい。</p>	